

# 飯能市地域公共交通基本計画実施計画 実績状況（H26～28年度）及び今後の方向性

平成29年6月

飯能市生活安全課交通政策室

# 飯能市地域公共交通基本計画実施計画事業一覧

基本目標	施策	事業	実績		今後の方向性				
			未実施	研究・検討	実施	継続実施	継続検討	見直し	廃止
基本目標1 地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」	① 市補助金の継続	(1) 赤字路線（4路線）に対する補助金の交付			○	●			
		(2) 高校生の通学定期補助			○	●			
		(3) 国際興業株との運行継続にかかる協定の締結			○	●			
		(4) 新たな補助金についての研究・検討		○		●			
	② 観光やイベント等によるバス利用のさらなる促進	(1) エコツアーリズムでのバス利用			○	●			
		(2) アニメツアーリズム（ラッピングバス）			○			●	
		(3) ひな飾り展等市内周遊券		○				●	
		(4) わくわく名栗クラブによる利用促進事業の検討・実施			○	●			
		(5) バス待合施設への観光情報提供			○	●			
	③ バス運行環境の整備	(1) バス待合施設整備		○		●			
基本目標2 路線バスを身近にして公共交通を「育てる」	① バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進	(1) バスマップの作成・配布			○	●			
		(2) バス案内表示の設置		○		●			
	② モビリティマネジメントの推進	(1) 公共交通ニュースの発行			○	●			
		(2) 通勤時の職員ノーマイカーデーの実施			○	●			
		(3) ギャラリーバスの実施			○	●			
		(4) バスの乗り方教室の実施			○	●			
	③ バス利用のための利便性の向上	(1) サイクル&バスライドの検討・実施			○	●			
		(2) パーク&バスライドの研究・検討・実施		○		●			
		(3) バス待ちスポットの登録			○	●			
	④ バス路線の見直し等の検討	(1) 双柳循環の検討・実施			○	●			
		(2) 大河原工業団地立地企業従業員の足の確保の検討・実施		○		●			
		(3) 西武飯能日高路線変更の検討・実施		○		●			
	基本目標3 生活を支える公共交通手段を「つくる」	① 「おでかけ」を守るための検討	(1) 地域懇談会の実施			○	●		
(2) 地区別方向性についての検討				○		●			
(3) 交通事業者との意見交換の実施					○	●			
(4) 飯能市地域公共交通対策協議会の実施					○	●			
(5) 飯能市地域公共交通対策協議会分科会の実施					○	●			
(6) 地域公共交通網形成計画の策定・実施				○		●			
(7) 市民意識調査、乗り込み調査による現状把握					○	●			
② スクールバスの活用の検討		(1) スクールバスの活用検討		○		●			
③ 社会資源活用の検討		(1) 社会資源の活用の研究・検討		○		●			

# 基本目標 1 地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」

施策	1-①	市補助金の継続				
事業	(1)	赤字路線（4路線）に対する補助金の交付				
実施主体		実施期間（H26～H30前期）				
市		H26	H27	H28	H29	H30
H26～H28実施実績						
<p>地域乗合バス路線対策費補助金交付要綱に基づき、赤字路線（4路線）に対して補助金を交付した。本補助金の交付により、山間地域の住民をはじめとする通勤や通学、そして、高齢者や車を運転しない方が通院や買い物等に利用する路線バスを維持・確保することができた。国際興業(株)飯能営業所の運行するバス路線は、山間地域だけでなく、市内の中心市街地や双柳の工業団地、そして、永田台などの新興住宅地域も含め、市内を広範囲で運行していただいている。また、地域住民の生活の足だけではなく、飯能を訪れる観光客の足としてもなくてはならない移動手段となっている。</p> <p>◎ 補助金交付路線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湯の沢線</li> <li>・名栗車庫線</li> <li>・間野黒指線</li> <li>・中藤・中沢線</li> </ul>						
今後の課題						実績
<p>路線バスが基幹交通となっている山間部を運行する路線バスについては、地域住民の移動手段の確保や住みよいまちを実現するため、また、観光拠点をつなぐとともに人の交流を活性化するためにも、引き続き補助金を交付する必要がある。</p> <p>しかし、地域での暮らしを続けられる補助金を交付してもなお、路線の維持確保が難しい路線については、路線バスの乗降客数や運行している沿線地域の状況把握を十分に行い、大幅な減便や廃線になった場合の代替案等の検討も並行して進めなければならない。特に乗降客数の把握は必須になるため、事業者との情報共有や意見交換を継続して行うことが重要となる。</p>						実施
						今後の方向性
						継続実施

施策	1-①	市補助金の継続												
事業	(2)	高校生の通学定期補助												
実施主体		実施期間（H26～H30前期）												
市		H26	H27	H28	H29	H30								
H26～H28実施実績														
<p>山間地区高校生の高額な通学定期券の購入費用については、高校生が安心して地域で生活しながら高校に通うことができるよう、引き続き補助金を交付する。</p> <p>目的：通学費に係る経済的な負担の軽減及び路線バスの利用促進を図る。</p> <p>補助対象者：高等学校、中学校、特別支援学校、中等教育学校、高等専門学校、専修学校に通学する生徒の保護者であり、生徒の通学費として年間10万円以上の経費を必要とする者</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; width: 80%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高等学校等通学補助件数</td> <td style="text-align: center;">148件</td> <td style="text-align: center;">146件</td> <td style="text-align: center;">125件</td> </tr> </tbody> </table>								平成26年度	平成27年度	平成28年度	高等学校等通学補助件数	148件	146件	125件
	平成26年度	平成27年度	平成28年度											
高等学校等通学補助件数	148件	146件	125件											
今後の課題						実績								
<p>今後、補助金の交付対象となっている山間地域の高等学校等の生徒数が大幅に減少すると想定される。今後の補助金交付予測を立て、交付対象となっている高校生がどのような理由で利用していないのかについても、アンケート等で調査していきたい。引き続き地域の公共交通を維持確保していく方法についての検討を進める。</p>						実施								
						今後の方向性								
						継続実施								

施策	1-①	市補助金の継続				
事業	(3)	国際興業㈱との運行継続にかかる協定の締結				
実施主体	実施期間（H26～H30前期）					
	H26	H27	H28	H29	H30	
市、事業者	◎運行継続		◎協議・協定締結	◎運行継続		
H26～H28実施実績						
<p>本市と国際興業㈱は、平成26年4月1日以降における国際興業㈱飯能営業所が運行する路線バス等の運行継続について平成26年4月1日から平成29年3月31日までを期間とする協定を締結し、本協定に基づき補助金の交付や利用促進事業等、市内公共交通維持・発展のための諸施策を市、地域、事業者が一体となり実施してきた。</p> <p>しかし、山間地域における少子高齢化に伴う人口減少は、推測値を上回る速さで進行しており、さまざまな取り組みにより新たな利用者が増えているものの、全体的な利用者の減少には歯止めがかからず、路線の維持・確保は依然として厳しい状況にある。</p> <p>このような状況の中、国際興業㈱では運行の継続に向けさまざまな企業努力を試みたが回復には至らず、平成28年6月に大規模な輸送力調整を行った。平成29年4月1日から平成32年3月31日までを期間とする、新たな協定を締結し、期間内の営業所の存続と営業所管内の路線バスの運行を確保した。</p>						
今後の課題					実績	
<p>平成29年4月1日から平成32年3月31日までの3か年の営業所の存続と営業所管内の運行は、協定の締結により確保することができたが、協定の中の項目では、廃止、減回もあり得るとしているため、利用状況によっては協定期間中に更なる輸送力調整が行われる可能性もある。</p> <p>路線の中でも特に、「間野黒指線」、「中藤・中沢線」、「小沢から湯の沢までの区間」の利用状況が悪いため、地域で必要とされる利用者の目的に合った移動手段を、地域の皆さんと一緒に検討する必要がある。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	


施策	1-①	市補助金の継続				
事業	(4)	新たな補助金についての研究・検討				
実施主体	実施期間（H26～H30前期）					
	H26	H27	H28	H29	H30	
市			◎研究・検討	◎研究・検討		
H26～H28実施実績						
<p>市では、赤字路線（4路線）に対する補助金のほか、高額定期券を利用する高校生等への補助金を交付している。既存のバス路線を維持・確保するため、引き続き、これらの補助金を継続するとともに、その他山間部以外を運行する路線バスに対する補助金や利用者に対する補助金について先進事例の情報収集や研究に努めた。</p> <p>山間部以外を運行する路線バスに対する補助金は、事業者からの依頼を受け検討を進めることとしているが、イーグルバスが運行している飯能駅発ひだか団地行の路線について、平成28年度に、県、日高市、飯能市に対し「地域間幹線系統補助金国庫補助」についての協調の依頼があった。イーグルバスが運行している路線の中で収支状況が悪化している区間が市内ではないこと、また、日高市は、補助金の交付を行わないということなどから、申し出のあった補助金の交付は行わないこととなった。</p>						
今後の課題					実績	
<p>引き続き既存のバス路線確保、そして、新たな地域住民の移動交通手段の確保のための事業を実施していく中で、必要に応じた新たな補助金の交付について調査・研究を進める。</p>					研究・検討	
					今後の方向性	
					継続検討	

施策	1-②	観光やイベント等によるバス利用のさらなる促進			
事業	(1)	エコツーリズムでのバス利用			
実施主体	実施期間 (H26~H30前期)				
市、地域、事業者	H26	H27	H28	H29	H30
	◎事業の継続・新規事業の計画・実施				
H26~H28実施実績					
○公共交通を活用したエコツアーの実施件数			※エコツアー実施件数(参考)		
年 度	鉄道を集合場所	バス停を集合場所	年度	実施数	参加者数
平成26年度	28件	19件	平成26年度	121ツアー	4,260人
平成27年度	30件	10件	平成27年度	102ツアー	4,092人
平成28年度	43件	10件	平成28年度	119ツアー	4,094人
○お散歩マーケット (間野黒指) 参加者数			◎公共交通を活用したエコツアーの割合		
年 度	春(5月)	秋(11月)	平成26年度	約39%	(47件/121件)
平成26年度	1,167人	692人	平成27年度	約39%	(40件/102件)
平成27年度	1,209人	761人	平成28年度	約44%	(53件/119件)
平成28年度	1,308人	671人			
今後の課題					実績
今後も継続して、公共交通を活用したツアーの計画・実施を進める。					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	1-②	観光やイベント等によるバス利用のさらなる促進			
事業	(2)	アニメツーリズム (ラッピングバス)			
実施主体	実施期間 (H26~H30前期)				
市、事業者	H26	H27	H28	H29	H30
	◎継続			◎研究・検討	
H26~H28実施実績					
<p>市内営業所管内を運行する国際興業バスの車内外に「ヤマノススメ」のラッピングを施し、アニメのファン等の利用促進につなげている。フルラッピングが2台、一部のラッピングが1台の計3台をラッピングバスとして走らせている。</p> <p>各種イベントでの利用やファンの集いにラッピングバスをチャーターするなど、活用の幅の広がりを見せている。また、路線バスのPRに効果を発揮している。</p>					
今後の課題					実績
ラッピングを施してから3~4年が経過 (ポイントラッピング平成25年8月から、フルラッピング平成26年4月から) しており、ヤマノススメには根強いファンがいるものの、ラッピングの老朽化も課題となっており、今後のあり方を検討する必要がある。また、更なる利用促進につなげるためにも、ヤマノススメのファンをターゲットにしたイベントの実施を定期的に実施するなど、新たな取組の検討が必要となる。					継続
					今後の方向性
					見直し


施策	1-②	観光やイベント等によるバス利用のさらなる促進			
事業	(3)	ひな祭り展等市内周遊券			
実施主体	実施期間 (H26~H30前期)				
事業者、市、地域	H26	H27	H28	H29	H30
	◎検討		◎新たな事業準備	◎事業の実証実験	◎事業の継続
H26~H28実施実績					
<p>ひな祭り展の名栗周遊券については、平成25年~26年に実施されたひな祭り展において、名栗地区の黒指~名郷区間を乗り降り自由とし何度でも乗車できるとする周遊券を発行した。大きな効果にはつながらなかったことから、方法を変える必要があり、平成26年度、27年度は実施に至らなかった。</p> <p>平成28年度においては、国際興業㈱と名栗地区行政センターが協力し、地域事業者との新たな事業実施に向け検討を行った。</p>					
					
今後の課題					実績
地域事業者、地域住民、バス事業者、行政が一体となり、それぞれの役割を明確にして、新規事業の効果的な実施を目指す。					研究・検討
					今後の方向性
					見直し

施策	1-②	観光やイベント等によるバス利用のさらなる促進			
事業	(4)	わくわく名栗クラブによる利用促進事業の検討・実施			
実施主体	実施期間 (H26~H30前期)				
地域、市、事業者	H26	H27	H28	H29	H30
	◎事業の継続・新規事業の計画・実施				
H26~H28実施実績					
<p>わくわく名栗クラブは、平成23年の国際興業㈱飯能営業所の撤退問題以降、名栗地区で活動する団体、個人及び行政等が一体となり、地域力の向上を図り、名栗地区を一層活性化させる方策、戦略等について調査・研究し、組織の連携をもって取り組むことを目的に設置された。目的を達成するために、川遊びイベント、エコツアー、その他のイベント実施、わくわくNAGURI通信発行（年3回）、観光名物発掘部会、広報部会の開催等毎月数回の会議を重ね、バス利用につながる事業を実施している。</p> <p>特に、川遊びイベントについては、普段川遊びをしたことがない都内の小学校にチラシを配布し、飯能に来るのも川遊びをするのも初めてという小学生や保護者が、国際興業のバスで名栗を訪れ、団体会員や地域住民のあたたかなおもてなしの中、川遊びを楽しむという事業であり、名栗を知っていただくための、また、バスの利用促進につながる良い機会となっている。</p>					
 					
今後の課題					実績
路線バスの維持確保、利用促進という大きな目的から始まった地域全体の事業であり、今後も継続して実施していけるよう、市も一緒に考え、事業者にも情報提供を行い連携を図りながら事業を進める。					実施
地域の皆さんの努力により、参加者に満足していただけるイベントとして定着してきたが、市の山間地域振興事業補助金を運営費の一部として活用していることもあり、今後は、参加費収入の中でどのように事業を継続していけるかが課題となっている。					今後の方向性
また、観光やイベントの実施と併せて、地域住民の利用促進も行っていく。					継続実施

施策	1-②	観光やイベント等によるバス利用のさらなる促進			
事業	(5)	バス待合施設への観光情報提供			
実施主体	実施期間（H26～H30前期）				
市、地域	H26	H27	H28	H29	H30
			◎バスまちスポットの登録	◎新規・継続	
H26～H28実施実績					
<p>埼玉県で進める「出歩きやすいまちづくり事業」の取り組みの一つである、「バスまちスポット」「まち愛スポット」登録を市内でも推進し、平成28年度においては、6つの民間施設と12の公共施設を登録することができた。これらの施設は、バス停留所の近くにあり、雨や風を凌ぐことができ、座って休憩できるスペースやトイレの利用、バスの時刻表の掲示などさまざまなサービスで気軽に立ち寄っていただくことができるスポットとなっている。</p> <p>登録している公共施設や一部民間施設において、バスルートマップをはじめとする市内の観光情報の提供を実施している。</p>					
今後の課題					実績
今後、「バスまちスポット」「まち愛スポット」への観光情報の提供を継続して行うとともに、その他のバス待合施設の新規登録を目指して広報していく。					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	1-③	バス運行環境の整備			
事業	(1)	バス待合施設整備			
実施主体	実施期間（H26～H30前期）				
市、地域、事業者	H26	H27	H28	H29	H30
			◎研究	◎現状把握・必要に応じた整備の検討	
H26～H28実施実績					
<p>国際興業(株)飯能営業所の撤退問題があった平成24年度に、国際興業バスが運行する路線のすべてのバス停留所の状況を把握するために確認を行っているが、そのバス停や待合施設の現状把握までには至っていない。平成28年度については、他市の先進的な事例の研究にとどまった。</p>					
今後の課題					実績
バス停留所の現状を把握するとともに、環境整備が必要なバス停をバス停を管理している地域の方々が、どのような方法で改修等していけるのかについても調査を行う。また、引き続き研究を進めるとともにバス待合施設の整備を進めるための検討を行う。					研究
					今後の方向性
					継続検討

## 基本目標2 路線バスを身近にして公共交通を「育てる」

施策	2-①	バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進			
事業	(1)	バスマップの作成・配布			
実施主体	実施期間（H26～H30前期）				
市	H26	H27	H28	H29	H30
	◎配布		◎作成	◎配布	
H26～H28実施実績					
<p>平成25年度に飯能市地域公共交通対策協議会において、市内を運行しているバス事業者3社共通のバスルートマップを作成し、平成26年4月から市内公共施設、各路線バス営業所等で配布した。また、市内で開催される各種イベント等でも配布したところ、観光客からのニーズが多くあった。</p> <p>平成28年度には、国の地方創生加速化交付金の交付を受け、バスルートマップを改訂し作成することができた。今回のマップについては、ニーズが多かった観光の要素を多く入れるとともに、平成30年秋にオープン予定であるメツァやあけぼの森公園も強調し、市民だけでなく市外からの来訪者にも使っていただけるものとした。</p>					
				 <p>平成26年4月から配布 10,000部作成</p>	 <p>平成29年4月から配布 10,000部作成</p>
今後の課題					実績
<p>市で実施するイベントや効果的な配布方法を検討し、引き続き広く配布する。また、市及び観光協会等のHPにも掲載し多くの方が必要な時に利用できるものとする。</p> <p>2回目の発行となるが、大変多くの方に活用していただいております、1回目の発行よりも減りが早い状況。今後、メツァビレッジのオープン等も踏まえ、継続したバスルートマップの発行を目指していく。</p>					実施
					今後の方向性
					継続実施


施策	2-①	バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進			
事業	(2)	バス案内表示の設置			
実施主体	実施期間（H26～H30前期）				
市、事業者	H26	H27	H28	H29	H30
			◎見直し・検討		◎実施
H26～H28実施実績					
<p>通常バスを利用されない方や初めて本市を訪れた方のバス利用の促進を進めるために、現在設置されているバス案内表示の確認や把握を行い、設置の検討を進めたが、実施には至らなかった。現在の飯能駅北口と南口のロータリー内の案内表示は、一目で行先や路線がどこを走っているのかがわかりやすい状況でないため、引き続き改善に向けた検討を進める。</p>					
今後の課題					実績
<p>わかりやすく乗りやすい路線バスを目指して、既存の看板の表示を改善する。</p> <p>また、次年度については、メツァビレッジがオープン予定であるため、ロータリーの使い方なども含めてわかりやすいバスの案内表示看板の設置を目指していく。</p>					検討
					今後の方向性
					継続検討



施策	2-②	モビリティマネジメントの推進				
事業	(1)	公共交通ニュースの発行				
実施主体		実施期間（H26～H30前期）				
		H26	H27	H28	H29	H30
市		◎実施		◎見直し	◎継続実施	
H26～H28実施実績						
<p>撤退問題をきっかけとして、市民の皆さんへの公共交通の現状を周知し、公共交通が運行していることが当たり前ではないということを理解していただくために、公共交通を取り巻く国及び市の現状や課題などを掲載した「公共交通ニュース」を発行した。初版は平成24年12月、2月に1回のペースで発行し、ホームページ及び職員に向け市内のイントラネットに掲載した。内容は多岐に及び、他市の交通担当者の方から問い合わせをいただくこともあった。</p> <p>平成28年度については、市内各地域において実施した地域懇談会でいただいた意見等をまとめ自治会回覧として、公共交通-ニュースを発行した。</p>						
 <p>公共交通ニュースvol.1～vol.35</p>						
今後の課題						実績
vol.34号までは、ホームページへの掲載のほか、市民の方が目にする機会がなかったため、公共交通の現状を正しく理解していただいている方が大変少ない状況であった。ニュースの内容は、公共交通の現状・課題をわかりやすくまとめたものであるため今後はリニューアルを行うとともに、より多くの方に公共交通を身近に感じていただけるよう、周知の方法を検討し効果的な啓発を行う必要がある。						実施
						今後の方向性
						継続実施


施策	2-②	モビリティマネジメントの推進				
事業	(2)	通勤時職員のノーマイカーデーの実施				
実施主体		実施期間（H26～H30前期）				
		H26	H27	H28	H29	H30
市		◎継続実施		◎継続・見直し	◎継続実施	
H26～H28実施実績						
<p>通勤時職員のノーマイカーデーの実施につきましては、撤退問題以降平成24年から年2回程度実施をしている。公共交通ニュースを市内イントラネットに掲載することにより、公共交通の維持確保が難しい状況等を周知するとともに、「みんなでまもる」といった意識の醸成を目的として実施しているが、普段は自家用車で通勤している職員が、路線バスや鉄道を使って通勤することにより、どのようにしたら公共交通が利用されるようになるかについて考える機会となっている。</p> <p>また、平成28年度については新たな試みとして、ツーデーマーチの前日準備で駐車場の利用を制限することとなったことから、併せてノーマイカーデーを実施し、公共交通の利用を促した。</p> <p>ノーマイカーデーの期間中に数回ということ、どうしても自家用車でなければという方を除き、多くの職員が公共交通や自転車等の利用に切り替えて通勤している。また、公共交通の現状・課題を継続して伝えてきたことにより、自由意見についても、積極的な公共交通利用を広げる方法の提案など前向きなものが多くなっている。</p>						
今後の課題						実績
今後も、継続して現状・課題の周知を行うとともに、公共交通の維持確保に向け、所管する各課の事業をどのようにして公共交通の利用促進とつなげていくかについて各課で考えていただけるよう、積極的に情報発信や情報交換を行うこととする。						実施
						今後の方向性
						継続実施

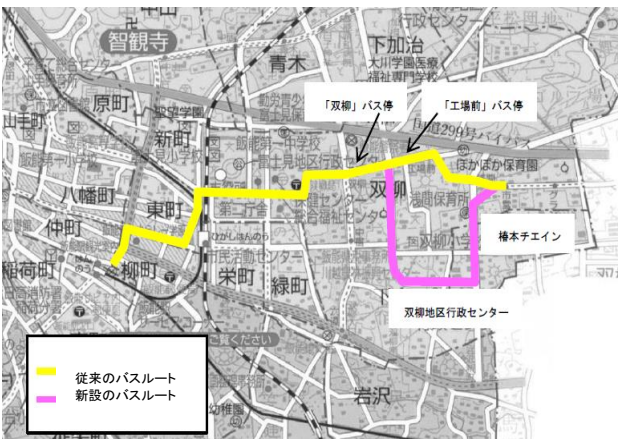
施策	2-②	モビリティマネジメントの推進			
事業	(3)	ギャラリーバスの実施			
実施主体	実施期間 (H26～H30前期)				
	H26	H27	H28	H29	H30
市・事業者	◎継続実施				
H26～H28実施実績					
<p>国際興業バスが誕生したときに採用されたカラーのバスが、平成23年から「旧塗装車両」として飯能市内を運行している。このバスの車内広告を掲示スペースを利用させていただき、ギャラリーバスとして、写真や絵画、ポスター等を掲示することにより、利用者の拡大を目指している。</p> <p>これまで、「写真でたどる飯能市の60年（特別展）～車窓から見る懐かしの風景～」「森林フォトコンテスト」「清流保全啓発ポスター」「小島喜八郎が描いた飯能の風景」「水道週間ポスター」「名栗の四季（名栗観光写真展）」など、さまざまな写真、絵画等を掲示し乗客の目を楽しませている。</p>					
					
旧塗装車両（ギャラリーバス） 名栗の四季写真展示					
今後の課題					実績
引き続き、HPや公共交通ニュースなどにおいて旧塗装車両及びギャラリーバスについて周知を行い、また、掲示期間や内容、そして、その広報の方法についても定期的に見直しを行うこととする。					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	2-②	モビリティマネジメントの推進			
事業	(4)	バスの乗り方教室の実施			
実施主体	実施期間 (H26～H30前期)				
	H26	H27	H28	H29	H30
地域、市、事業者	◎実施				
H26～H28実施実績					
<p>平成25年度 名栗地区行政センター主催によりバスの乗り方教室を実施した。午前中は小学生を対象に、午後は、地域にお住まいの高齢者の方を対象に路線バスの乗り方教室を実施し、路線バスに乗るための基本的な事項や体験も踏まえたバスの乗り方等について国際興業(株)運転手から説明があった。平成26年度には、原市場小学校で3、4学年を対象として実施した。また、平成28年度には、市内全域の小学生を対象として、ワンコインバスの利用促進と併せて、はんのうエコクラブという団体と協力して実施した。</p>					
					
今後の課題					実績
バスを利用しない理由の一つとして、バスの乗り方がわからない方はまだまだ多いと考える。バスの乗り方と併せて、市の公共施設を利用するためには、どの路線に乗り継ぎ、どこで降りればよいかなどについても知っていただく機会となるよう、今後も引き続き乗り方教室を実施していくことが必要と考える。					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	2-③	バス利用のための利便性の向上				
事業	(1)	サイクル&バスライドの検討・実施				
実施主体	実施期間（H26～H30前期）					
	H26	H27	H28	H29	H30	
市			◎検討・整備	◎検討		
H26～H28実施実績						
<p>国際興業(株)飯能営業所の撤退問題があった平成24年度に、国際興業バスが運行する路線のすべてのバス停留所の状況を把握するために確認を行っているが、そのバス停や待合施設の状態などの把握までには至っていない。</p> <p>飯能・名栗線と中藤・中沢線の結節停留所となっている新寺バス停については、以前から、地域住民や市議会議員の一般質問の中で駐輪場の整備が求められていたことから、市において現状を確認した上で、土地の所有者に了承をいただき、防草シートと砂利の敷設を行った。</p>						
						
			整備前	整備後		
今後の課題					実績	
<p>駐輪場の整備を実施した「新寺」バス停以外のバス停についても、サイクル&amp;バスライドが必要との要望をいただいているため、地域からのニーズ等を調査した上で、路線バスの利便性の向上を目指して検討を進める。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続検討	

施策	2-③	バス利用のための利便性の向上			
事業	(2)	パーク&ライドの研究・検討・実施			
実施主体	実施期間（H26～H30前期）				
	H26	H27	H28	H29	H30
地域、市、事業者			◎研究	◎研究・検討	
H26～H28実施実績					
<p>平成28年度に実施した公共交通地域懇談会については、路線バスの大幅な減便があった、中藤・中沢路線沿線住民の方との懇談会において、地域住民の方から「新寺」バス停付近に駐車場があれば、そこからバスに乗り継げるのではという要望があったが、サイクル&amp;ライドの視点からの駐車場整備とパーク&amp;ライドについての先進事例の研究にとどまり、実施に向けた検討には至っていない。</p>					
今後の課題					実績
<p>各停留所の状況を把握し、パーク&amp;ライドの必要箇所の状況や実施方法等について引き続き研究・検討を進める。</p>					研究
					今後の方向性
					継続検討

施策	2-③	バス利用のための利便性の向上																																																												
事業	(3)	バスまちスポットの登録																																																												
実施主体	実施期間 (H26~H30前期)																																																													
市、地域	H26	H27	H28	H29	H30																																																									
			◎検討・登録	◎継続・新規登録の推進																																																										
H26~H28実施実績																																																														
<p>市では、路線バスの利用促進を目的として、埼玉県で進める「出歩きやすい街づくり事業」の取組の1つである、「バスまちスポット」「まち愛スポット」の登録を実施した。</p> <p>これは、バス停留所の近くで、バスを気軽に待てるお店や公共施設が登録し、座って休憩できるスペースやトイレの利用、バスの時刻表を掲示しているなど、さまざまなサービスで、お気軽にお立ち寄りいただくものであり、平成28年度に18の施設にご登録いただくことができた。</p>					<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>バスまちスポット</th> <th>最寄りバス停</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>飯能商工会議所</td><td>本町</td></tr> <tr><td>2</td><td>飯能中央地区行政センター</td><td>飯能河原</td></tr> <tr><td>3</td><td>ファミリーマート東飯能駅西口店</td><td>東飯能駅</td></tr> <tr><td>4</td><td>市民活動センター</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>セブンイレブン飯能永田店</td><td>永田大杉</td></tr> <tr><td>6</td><td>第二地区行政センター</td><td>小瀬戸公民館</td></tr> <tr><td>7</td><td>セブンイレブン飯能原市場店</td><td>赤工</td></tr> <tr><td>8</td><td>原市場地区行政センター</td><td>石原橋</td></tr> <tr><td>9</td><td>飯能市役所名栗庁舎</td><td>小殿</td></tr> <tr><td>10</td><td>農林産物加工直売所やませみ</td><td>さわらびの湯</td></tr> <tr><td>11</td><td>飯能市役所</td><td>市役所前</td></tr> <tr><td>12</td><td>飯能市総合福祉センター</td><td>福祉センター</td></tr> <tr><td>13</td><td>双柳地区行政センター</td><td>双柳地区行政センター</td></tr> <tr><td>14</td><td>飯能市立図書館</td><td>天覧山入口</td></tr> <tr><td>15</td><td>医療法人靖和会 飯能靖和病院</td><td>飯能靖和病院</td></tr> <tr><td>16</td><td>美杉台公園事務所</td><td>美杉台公園</td></tr> <tr><td>17</td><td>ローソン飯能美杉台六丁目店</td><td>美杉台ニュータウン南/クリーンセンター</td></tr> <tr><td>18</td><td>南高麗地区行政センター</td><td>南高麗小学校</td></tr> </tbody> </table>	No.	バスまちスポット	最寄りバス停	1	飯能商工会議所	本町	2	飯能中央地区行政センター	飯能河原	3	ファミリーマート東飯能駅西口店	東飯能駅	4	市民活動センター		5	セブンイレブン飯能永田店	永田大杉	6	第二地区行政センター	小瀬戸公民館	7	セブンイレブン飯能原市場店	赤工	8	原市場地区行政センター	石原橋	9	飯能市役所名栗庁舎	小殿	10	農林産物加工直売所やませみ	さわらびの湯	11	飯能市役所	市役所前	12	飯能市総合福祉センター	福祉センター	13	双柳地区行政センター	双柳地区行政センター	14	飯能市立図書館	天覧山入口	15	医療法人靖和会 飯能靖和病院	飯能靖和病院	16	美杉台公園事務所	美杉台公園	17	ローソン飯能美杉台六丁目店	美杉台ニュータウン南/クリーンセンター	18	南高麗地区行政センター	南高麗小学校
No.	バスまちスポット	最寄りバス停																																																												
1	飯能商工会議所	本町																																																												
2	飯能中央地区行政センター	飯能河原																																																												
3	ファミリーマート東飯能駅西口店	東飯能駅																																																												
4	市民活動センター																																																													
5	セブンイレブン飯能永田店	永田大杉																																																												
6	第二地区行政センター	小瀬戸公民館																																																												
7	セブンイレブン飯能原市場店	赤工																																																												
8	原市場地区行政センター	石原橋																																																												
9	飯能市役所名栗庁舎	小殿																																																												
10	農林産物加工直売所やませみ	さわらびの湯																																																												
11	飯能市役所	市役所前																																																												
12	飯能市総合福祉センター	福祉センター																																																												
13	双柳地区行政センター	双柳地区行政センター																																																												
14	飯能市立図書館	天覧山入口																																																												
15	医療法人靖和会 飯能靖和病院	飯能靖和病院																																																												
16	美杉台公園事務所	美杉台公園																																																												
17	ローソン飯能美杉台六丁目店	美杉台ニュータウン南/クリーンセンター																																																												
18	南高麗地区行政センター	南高麗小学校																																																												
今後の課題					実績																																																									
<p>今後は、これらの施設を気軽に立ち寄れるバスを待つ施設として利用していただくため、市民及び観光客に広く周知するとともに、登録していただいた施設に対しても、定期的に情報提供や情報交換を行い、路線バスの利用促進に努めていく。</p>					実施																																																									
					今後の方向性																																																									
					継続実施																																																									

施策	2-④	バス路線の見直し等の検討				
事業	(1)	双柳循環の検討・実施				
事業者、市	H26	H27	H28	H29	H30	
	◎検討	◎実施	◎継続			
H26~H28実施実績						
<p>国際興業㈱では、平成27年10月に、住宅開発の状況を踏まえ、地域住民の利便性の向上、また、経営改善を目的として、これまで運行していた「飯14系統市営住宅バス」の運行ルートを見直し、双柳地区から飯能駅までを循環するルートを新設した。</p> <p>沿線には、多くの企業が立地し、また、地区行政センター、福祉センター、市役所などの公共施設もあることなどから、新たな利用者の確保につながるなど、大きな効果が得られている。</p>						
今後の課題					実績	
<p>路線上にはワンコインゾーンの設定があり、利用者は増加しているものの、利用料金を減額している分の収入増には達していない状況。今後は、他の路線からの乗り継ぎにより、この施設を利用できるなどのPR等を継続して実施し利用率を高めていく。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	

施策	2-④	バス路線の見直し等の検討			
事業	(2)	大河原工業団地立地企業従業員の足の確保の検討・実施			
実施主体	実施期間 (H26~H30前期)				
事業者、市	H26	H27	H28	H29	H30
			◎延伸検討、実施	◎東飯能直行便の検討	
H26~H28実施実績					
<p>市では、雇用機会の拡大と安定を図るため、飯能大河原工業団地（以下「工業団地」という。）を整備し、企業誘致を進めてきた。平成23年度から順調に企業立地が進み、平成27年度には立地率100%に達した。新規雇用者も増え、とりわけ市外からの通勤者の足の確保が課題となっていた。</p> <p>平成24年度に、それまで「美杉台ニュータウン行」のバスが「大河原工業団地東行」まで延伸されると、地域住民だけでなく、立地企業の従業員及び企業への訪問者の利用も高まり、効率の良い路線となった。</p> <p>また、工業団地内の操業開始企業がさらに増える見込みがあることから、工業団地奥までのバス路線延伸や増便の声をもとに、市、飯能大河原工業団地工業会及びバス事業者と協議を重ねてきた。その結果、平成29年3月に「大河原工業団地東行」が「クワンパッケージ前」まで延伸がされるとともに、朝夕3便ずつ増便され、通勤利用者の利便性が向上された。</p>					
今後の課題					実績
<p>工業団地内への路線が延伸、増便されたことにより、立地企業従業員にとって使いやすい路線となり、利用者も増加している。今後は、工業団地内の操業開始企業がさらに増えるため、通勤時間帯のさらなる増便等を検討していかなければならない。また、通勤時間帯の飯能駅南口ロータリー停留所での混雑緩和対策も必要となっている。</p> <p>また、立地企業従業員の中にはJR八高線利用者も多く、東飯能駅から工業団地行きのバス需要もあることから、工業団地への直行便の運行について、バス事業者と協議を重ねていく必要がある。なお、市の施策の一つである「農ある暮らし」を推進するためにも、南高麗地区を運行する「間野黒指線」の存続が課題となっており、その路線と併せて東飯能駅から直行便の運行について協議していく必要がある。</p>					協議・検討
					今後の方向性
					継続検討

施策	2-④	バス路線の見直し等の検討			
事業	(3)	西武飯能日高路線変更の検討・実施			
実施主体	実施期間 (H26~H30前期)				
地域、市、事業者	H26	H27	H28	H29	H30
			◎検討	◎検討	◎実施準備
H26~H28実施実績					
<p>平成27年度に、本郷自治会を中心とした「西武飯能日高線」路線沿線自治会から、市長に対して、路線バスの経路変更についての要望書が提出された。これは、永田台に住んでいる小学生は、本路線バスを利用して通学しており、小学校から離れた「飯能河原」停留所で乗降車しているが、30人ほどの児童が乗り降りをするを考えると、小学校に近い位置に停留所させた方が安全面からも望ましいこと。そして、小学校裏側には市立図書館が新設され、また、その西側には市民会館、そして西中学校が立地していることから、現在、運行されている路線を一本北側の道路に変更することにより、公共施設が利用しやすくなり、路線バスの利便性が高まることなどが挙げられている。これまでも、議会の一般質問で同様の提案があり検討を求められていたため、実現の可能性について、国際興業に確認した。</p> <p>また、変更後の運行ルートである1-4号線、飯能大河原線（仮称）については、現在大規模な工事を行っているところであり、供用開始が平成30年度末になることから、工事の終了と併せて新たな路線で運行していただけるよう国際興業(株)に伝え、路線変更について検討を行った。</p>					
今後の課題					実績
<p>工事の実施と併せて、バス停の設置等必要な事項を検討していけるよう、工事担当課と事業者と情報交換を行い進めていく。</p>					協議・検討
					今後の方向性
					継続検討

### 基本目標3 生活を支える公共交通手段を「つくる」

施策	3-①	「おでかけ」を守るための検討				
事業	(1)	地域懇談会の実施				
実施主体	実施期間（H26～H30前期）					
市、地域	H26	H27	H28	H29	H30	
			◎実施	◎実施		
H26～H28実施実績						
<p>市、地域における地域公共交通の現状や課題を理解していただくとともに、これからの公共交通のあり方、これからのまちづくりを考えるスタートとして、市内全地区において、～暮らしを支える地域公共交通の実現を目指して～これからの地域公共交通のあり方に関する市民懇談会を開催した。各地区において多くの方にご参加いただき、意見交換また要望等を伺った。</p> <p>撤退問題以降、公共交通の関係で地域に出向いたのは初めてだったが、実際に移動手段が路線バスだけでなくなるのは困るというご意見や、コミュニティバス・デマンドバスの運行など、内容は多岐に及んだ。</p> <p>後日、自治会にご協力をいただき、懇談会で頂戴したさまざまなご意見を公共交通ニュースとしてまとめ、各地域に回覧という形で周知した。</p>		市民懇談会参加者集計（単位：人）				
		実施日	実施場所	市民	男	女
11月25日	加治東地区行政センター	20	17	3		
12月3日	双柳地区行政センター	12	11	1		
12月3日	富士見地区行政センター	11	11	0		
12月6日	東吾野地区行政センター	15	12	3		
12月7日	精明地区行政センター	16	15	1		
12月8日	飯能中央地区行政センター	12	8	4		
12月10日	第二区地区行政センター	33	21	12		
12月10日	南高麗地区行政センター	20	19	1		
12月10日	美杉台地区行政センター	13	11	2		
12月15日	吾野地区行政センター	32	30	2		
12月17日	名栗地区行政センター	26	22	4		
12月17日	原市邊地区行政センター	26	20	6		
12月17日	加治地区行政センター	16	11	5		
合 計		252	208	44		
※11月23日 地域からの要望により、中藤・中沢地区住民との懇談会を開催し、65名の方にご参加いただいた。						
今後の課題					実績	
<p>これまで、公共交通については、ニュース・市広報等で現状と課題を記事にして掲載し、周知を図ってきたが、懇談会において、これまで発信してきたことについて理解されている方が少ないということがわかったため、繰り返しにはなるが、記事、または出前講座等においてわかりやすく伝え、理解を得る必要がある。</p> <p>また、今後も必要に応じて地域に出向き、市内公共交通の現状を伝えるとともに、公共交通の運行は当たり前ではないこと、乗らなければ守ることができないことなど継続した意識啓発を行う。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	

施策	3-①	「おでかけ」を守るための検討				
事業	(2)	地区別方向性についての検討				
実施主体	実施期間（H26～H30前期）					
市、地域、事業者	H26	H27	H28	H29	H30	
			◎整理	◎検討		
H26～H28実施実績						
<p>各地域で実施した市民懇談会でいただいた意見や基本計画の施策、そして、各地域ごとの人口、事業所、観光客の入れ込み客数等さまざまなデータを併せて、現時点での各地区、路線・鉄道沿線地域の今後の方向性について整理を行った。また、そこから見えてくる、全市的に進めなければならないことについても整理を行った。</p>						
今後の課題					実績	
<p>網形成計画の策定に向け、全市的なアンケート調査及び聞き取り調査を行い、より詳細な地域ごとの地域公共交通に関する方向性を検討する。またその結果を基に網形成計画を策定し、必要に応じて、再編実施計画を策定するかどうかについても検討する。</p>					整理・検討	
					今後の方向性	
					継続検討	

施策	3-①	「おでかけ」を守るための検討				
事業	(3)	交通事業者との意見交換の実施				
実施主体	実施期間（H26～H30前期）					
市、事業者	H26	H27	H28	H29	H30	
	◎分科会の開催		◎連絡会の開催	◎分科会の開催		
H26～H28実施実績						
<p>平成24年度に設置した飯能市地域公共交通対策協議会の中の路線バスについての分科会として、市内を運行する路線バスの運行事業者、福島大学准教授吉田樹様にもご出席いただき「飯能市地域公共交通対策協議会分科会」を開催した。</p> <p>平成26年度から28年度まで、毎年1回のペースで開催し、市の交通政策に関する事業報告や次年度における事業計画、そして、事業者における情報を交換し、改善が必要なものについては検討を行った。</p> <p>平成28年度については、年度内にバスルートマップの改訂を予定していたので、内容について確認していただき、3社共通の利用しやすいマップになるよう、ご意見をいただいた。また、平成27年から滞っていた協議会の設置についてもご意見を伺い、今後の必要性などから「道路運送法」「公共交通活性化及び再生に関する法律」の2法に基づく法定の協議会の設置についてご理解をいただき、年度内に設置した。</p> <p>また、分科会とは別に利用者増につながる市からの提案や、市民要望について、関係事業者との意見交換を必要に応じて行った。</p>						
今後の課題					実績	
<p>平成29年度については、「地域公共交通網形成計画」の策定に向け、市民に対するアンケート調査を実施する予定であり、その内容等についても専門的な視点でご意見をいただく。また、3社が路線バスを運行するにあたって問題・課題となっている点などを伺い、よりよいバスの運行環境の実現に向け、市・事業者とともに意見交換を行っていく。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	

施策	3-①	「おでかけ」を守るための検討				
事業	(4)	飯能市地域公共交通対策協議会の実施				
実施主体	実施期間（H26～H30前期）					
市、事業者、地域	H26	H27	H28	H29	H30	
	◎任意協議会の開催		◎開催準備	◎法定協議会の開催		
H26～H28実施実績						
<p>市では、市全体の公共交通のあり方を考え、公共交通の基本方針を定めた計画の策定などを協議するために、平成24年10月に「飯能市地域公共交通対策協議会」（任意協議会）を設置し、「飯能市地域公共交通基本計画」（平成26年3月）の策定や計画の進捗確認、路線バスの利用促進に関する取り組みの実施などを進めてきた。</p> <p>しかし、路線バスの利用者の減少、公共交通が不十分な地域や交通空白地域など、各々の地域における公共交通に関する諸課題を解決するためには、多様な関係者による合意形成や協働の取り組みをより効率的・効果的かつ確実に行うことが必要となっていた。</p> <p>また、都市回廊空間や新たな観光拠点などを結ぶネットワークとしての公共交通の検討も必要であり、まちづくりや観光などの関連分野と強く連携しながら「持続可能な公共交通」を実現することも喫緊の課題となっていた。</p> <p>このようなことから、地域住民や観光客等の来訪者の移動手段である公共交通の再編することを目的として、これまで任意で設置していた「飯能市地域公共交通対策協議会」を、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」と「道路運送法」の2法に基づく協議会として新たに設置した。</p>						
今後の課題					実績	
<p>現行の「飯能市地域公共交通基本計画」の実施状況について整理と評価を行い、「地域公共交通網形成計画」の策定に向け協議及び実施に関する連絡調整を行うとともに、計画の実施に関しても協議をしていただく。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	

施策	3-①	「おでかけ」を守るための検討				
事業	(5)	飯能市地域公共交通対策協議会分科会の実施				
実施主体	実施期間（H26～H30前期）					
	H26	H27	H28	H29	H30	
市、事業者						
H26～H28実施実績						
<p>平成24年度に設置した飯能市地域公共交通対策協議会の中の路線バスについての分科会として、市内を運行する路線バスの運行事業者、福島大学准教授吉田樹様にご出席をいただき「飯能市地域公共交通対策協議会分科会」を開催した。</p> <p>平成26年度から28年度まで、毎年1回のペースで開催し、市の交通政策に関する事業報告や次年度における事業計画、そして、事業者における情報を交換し、改善が必要なものについては検討を行った。</p> <p>平成28年度については、年度内にバスルートマップの改訂を予定していたので、内容について確認していただき、3社共通の利用しやすいマップになるよう、ご意見をいただいた。また、平成27年から滞っていた協議会の設置についてもご意見を伺い、今後の必要性などから「道路運送法」「公共交通活性化及び再生に関する法律」の2法に基づく法定の協議会の設置についてご理解をいただき、年度内に設置することとなった。（事業者との意見交換の実施と同じ内容）</p>						
今後の課題					実績	
<p>平成29年度については、「飯能市地域公共交通網形成計画」の策定に向け、「飯能市地域公共交通対策協議会」の開催前に、分科会を開催し、現状・課題等を伺った後、必要に応じてその内容を資料等に反映する。</p> <p>路線バスの利用状況等、計画の策定に必要な情報共有を行う。</p>					実施	
					今後の方向性	
					継続実施	

施策	3-①	「おでかけ」を守るための検討				
事業	(6)	地域公共交通網形成計画の策定・実施				
実施主体	実施期間（H26～H30前期）					
	H26	H27	H28	H29	H30	
市、事業者、地域						
H26～H28実施実績						
<p>平成26年3月に策定した「飯能市地域公共交通基本計画」に基づき、路線バスを中心とした公共交通の利用促進に関する取り組みを実施してきたが、少子高齢化に伴う人口減少による路線バスの利用者の減少や公共交通が不十分な地域や交通空白地域など、各々の地域における公共交通に関するすべての課題の解決には至っていない状況であった。</p> <p>また、都市回廊空間や新たな観光拠点などを結ぶネットワークとしての公共交通の検討も必要であり、まちづくりや観光などの関連分野と強く連携しながら「持続可能な公共交通」を実現することも喫緊の課題となっていた。</p> <p>このようなことから、平成28年度に、これまで任意で設置していた「飯能市地域公共交通対策協議会」を、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」と「道路運送法」の2法に基づく協議会として新たに設置し、地域住民や観光客等の来訪者の移動手段である公共交通の再編を目指して、「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにするマスタープランとしての役割を果たす「地域公共交通網形成計画」を策定することとなった。</p>						
今後の課題					実績	
<p>意識調査、利用者アンケート、ヒアリング調査を実施することにより地域の実情を充分把握し、「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにする計画の策定を目指す。</p>					研究・検討	
					今後の方向性	
					継続検討	



施策	3-①	「おでかけ」を守るための検討			
事業	(7)	市民意識調査、乗り込み調査による現状把握			
実施主体	実施期間（H26～H30前期）				
市、地域、事業者	H26	H27	H28	H29	H30
			◎検討・乗込み実施	◎検討・調査実施	◎必要に応じて実施
H26～H28実施実績					
<p>平成28年6月に国際興業㈱の赤字路線において大幅な輸送力調整（減便）が実施された。市では、地域住民へ乗客数などの現状を説明するため、輸送力調整実施前の平成28年3月と実施後の7月に、間野黒指線と中藤・中沢線に乗り込み調査を実施し実態を把握した。</p> <p>また、地域公共交通網形成計画の策定に向け、平成29年度に市民意識調査を実施する必要性が出てきたことから、実施に向けた準備を行った。</p>					
今後の課題					実績
市民意識調査については、調査の内容や方法を研究し効果的な実施に努める。また、乗り込み調査やヒアリング調査など、公共交通の利用者及び利用者になり得る方の集まる機会等と併せて調査を実施する。					実施
					今後の方向性
					継続実施

施策	3-②	スクールバスの活用検討			
事業	(1)	スクールバスの活用検討			
実施主体	実施期間（H26～H30前期）				
市、地域、事業者	H26	H27	H28	H29	H30
			◎実施検討		◎実証実験
H26～H28実施実績					
<p>スクールバスの混乗については、スクールバスが運行している地域のすべてにおいて要望があり、議会の一般質問でも吾野地区のスクールバスの混乗は取り上げられている。鉄道、路線バスが運行している地域でも公共交通を利用するまでの間の移動手段がない地域が多く、社会資源の一つとして「スクールバスの活用」が求められている。</p> <p>平成28年度については、懇談会等において地域住民の意見・要望を把握し、現在、委託・補助金の交付により運行されているスクールバスの路線を確認。事業者と市でスクールバスの住民混乗について協議を行い、混乗を実現するために解決しなければならない課題等について検討を行った。</p>					
今後の課題					実績
協議の結果、スクールバスに地域住民を混乗させることは可能であるが、現在、貸切バスの委託業務で実施している学校、スクールバス用の路線を補助金の交付により運行している学校、そして、路線バスを通学に使用している学校とバスを使用した児童の通学方法も3通りあるので、各々の地域でどのような利用が求められているかについて地域ごとに把握するとともに、各学校、地域住民への確認、そして、市全体として公平な制度となるようルールを検討していく必要がある。					協議・検討
まずは、住民のニーズも高く可能性の高い吾野地区での混乗を目指し、実施に向けた検討を進める。					今後の方向性
					継続検討

施策	3-③	社会資源活用の検討			
事業	(1)	社会資源の活用の研究・検討			
実施主体	実施期間（H26～H30前期）				
市	H26	H27	H28	H29	H30
			◎先進事例の研究	◎現状把握・検討	◎実施
H26～H28実施実績					
<p>平成25年度に、飯能駅、東飯能駅を発着する企業の送迎バスの状況を調査しているが、その後、それらの送迎バスを社会資源としての活用の検討には至っていない。平成28年度については、他の自治体の先進事例の研究にとどまった。</p>					
今後の課題					実績
<p>平成29年度については、以前実施した送迎バスの調査を再度行い、活用の可能性について道路運送法に抵触しない形でその方法をまとめ、地域住民のご意見を把握するとともに、活用の必要性について検討を行う。</p> <p>既存の社会資源の活用となると、路線バスに乗るよりも制約があり地域住民が便利に使えるというものではないため、他の移動手段の検討も並行して行う。</p>					研究
					今後の方向性
					継続検討